



1、2_立川晴の輔さんの落語、神田京子さんの講談の一場面 3_名前入りののぼり 4_トークショーの様子。2人の登場に客席が沸いた

落語家と講談師による至芸の共演 「立川晴の輔・神田京子内子公演」開催

「立川晴の輔・神田京子内子公演」が2月8日、共生館で行われました。主催の南海放送(株)の代表取締役会長・田中和彦さんが「味わい深い世界をたっぷり楽しんで」とあいさつした後、出演者のトークショーを実施。長年にわたり親交のある2人が息の合った掛け合いを披露すると、会場は和やかな雰囲気に包まれました。

続いて神田京子さんが高座に上がり講談を披露。一頭の馬をきっかけに貧しい武士が出世する『出世の馬揃え』を、張扇で釈台を打ちながらコミカルに語りました。さらにオリジナル講談『金子みすゞ伝』では、詩人・金子みすゞの生き方や心情を丁寧に表現。来場者は「テンポの良い講談にすっかり魅了された」と満足そうでした。

後半は立川晴の輔さんが古典落語『井戸の茶碗』を上演。仏像の売買を巡るやり取りを描いた物語で、正直者の清兵衛、若侍・高木佐久左衛門、浪人・千代田卜斎ら人情にあふれる登場人物を、表情豊かに演じました。プロの巧みな話芸を存分に楽しんだ観客からは「面白くて、終始笑っていた」と感想が寄せられました。



金づちでコンコン。クヌギに菌を打ち込んでいく

森の恵み・原木シイタケの魅力を学ぼう 立川小の子どもたちが植菌体験

立川小学校のシイタケ植菌体験が2月12日、同校で開かれました。児童は初めにシイタケに含まれる栄養素などを学習。その後、林業研究グループや森林組合から指導を受けながら、用意された40本のクヌギにドリルで穴を開け、次々と植菌しました。6年生の山中愛華さんは「シイタケのことを楽しく学べた。森に優しく体にもいいから、これからもたくさん食べたい」と笑顔でした。



「できる限りの支援、協力をしたい」と竹井会長(右)

八幡浜・大洲地区トラック協会と内子町が協定 有事にまちを支える物流体制の確保へ

八幡浜・大洲地区トラック協会(竹井伸夫地区会長)と内子町が「災害時における物資の輸送等に関する協定」を結び、署名式が2月16日に行われました。内子町が地震や風水害などの被害を受けた際、生活必需品や救援物資の円滑な配送・受け入れを目指します。小野植正久町長は「発災後の物資運搬は大きな課題。住民を支えるための協力をお願いしたい」と思いを伝えました。

小田川沿いを楽しく走って健康づくり 声を掛け合い駆け抜けたジョギング大会

「第45回いかざきジョギング大会」が2月1日、あけぼの橋からJA愛媛たいき五十崎農産センターまでの往復1.9kmのコースで開かれました。小学生から大人まで19人が参加し、速さを競ったり、家族や友人と声を掛け合ったりしながら、それぞれのペースで心地よい汗を流しました。ゴール後にはおにぎりや温かい豚汁が振る舞われ、心も体も温まる一日となりました。



午前10時、ピストルの合図で一斉にスタート

怒りんぼ鬼も、泣き虫鬼もやっつけよう！ 内子保育園の子どもたちが豆まき

内子保育園の節分行事が2月3日、同園で行われました。園児は「みんなの心にいる鬼をやっつけよう」と教わった後、豆まきに挑戦しました。「鬼は外」と元気な声を響かせていると、2体の鬼が登場。泣きながら逃げる子、豆に見立てた紙玉を果敢に投げる子もいました。宮岡祥生園長は「季節の行事を楽しみながら、またひとつ強くなった気持ちで春を迎えてほしい」と語りました。



鬼の被り物を着けて、いざ鬼退治

災害時に迅速な対応を図るために 大井産業と町が資機材提供の協定を締結

(株)大井産業と内子町が災害時の資機材提供に関する協定書を締結し、調印式が2月4日、内子町役場で行われました。この協定は内子町内で災害が発生した際に、同社が発電機やレンタル建設機械などの提供・運搬に協力するもの。執行役員社長の床島俊彦さんは「内子町内には車両整備工場もある。有事の際は本社とともに総力を挙げて、迅速に対応したい」と語りました。



床島社長(右)へ感謝を伝えた小野植正久町長

内子小で恒例の「子どもマラソン大会」 ベストを目指して全力疾走

「第52回子どもマラソン大会」(内子小学校、内子・城廻地区愛護班連絡会共催)が2月6日、同校周辺のコースで開かれました。沿道で保護者らが声援を送り、応えるように笑顔を見せる児童も。冷たい空気に頬を真っ赤にして懸命に走り抜けました。宮内頼斗さん(6年)は「家族の応援が力になり、一番良い走りができた。最後まで諦めない気持ちを今後に生かしたい」と振り返りました。



ゴールまであと少し。最後の力を出し切る